

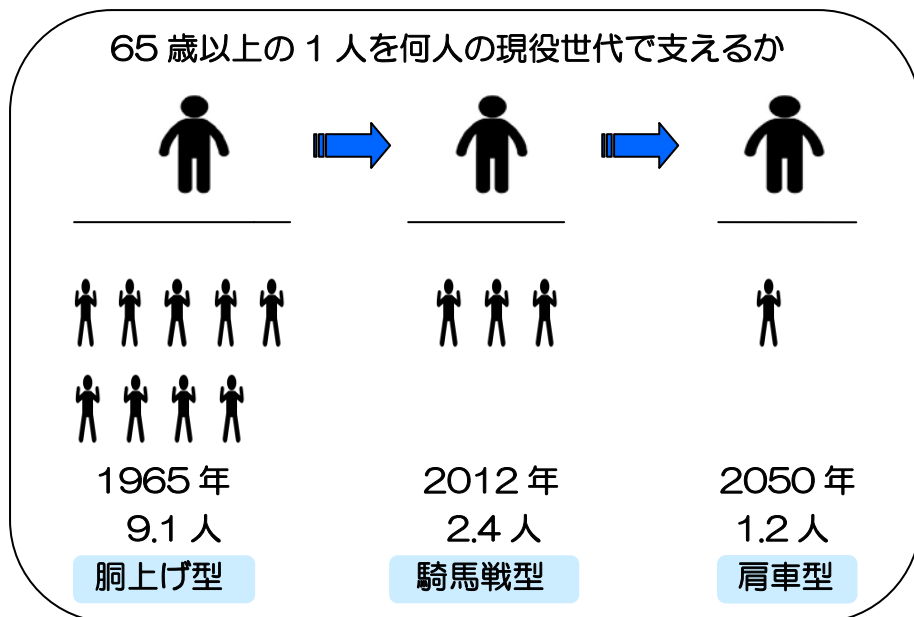
さくらだより【48号】



2015年8月3日発行

2014年の日本人女性の平均寿命は86.83歳、男性は80.50歳でした。いずれも過去最高を更新しました。女性は3年連続世界一で、男性は前年の世界4位から3位に上昇しました。がん、心疾患、脳血管疾患の3大疾患で死亡する確率が、男性は51.20%、女性は47.80%でした。医学の進歩でこれが“0”になった場合、平均寿命が男性で7.28歳、女性で6.02歳のびるそうです。超高齢化社会での問題点は、介護と高齢者を支える現役世代の負担でしょう。現在は現役2.4人で1人の65歳以上の1人を支えているということです。社会保障の負担は年々重くなる一方です。重荷を軽くするには医療や介護のあり方を見直してムダを省く必要があります。もちろん少子化対策もですが。

現役2.4人の「騎馬戦」



匿名の第三者の卵子で体外受精を2組で実施したとの報告がありました。自分の卵子で妊娠できない夫婦には朗報ですがいろいろ課題もあります。

- ★ 卵子提供について法整備は進んでいない
 - ★ 生まれた子の「出自を知る権利」が徹底されていない
 - ★ 卵の提供者の採卵時のリスクと、重篤な症状が出た場合の補償態勢が整っていない
- という点です。
日本のように養子制度が定着していない国では、もっと症例が増えるかもしれませんね。